

\*1999年 7月改訂 (第2版)  
1998年 9月改訂

日本標準商品分類番号
8 7 2 3 1 2

貯 法：遮光した気密容器  
使用期限：4年 (容器に記載してある。)  
たん白質の基原：カゼイン

承認番号	16000AMZ05633
薬価収載	1985年12月
販売開始	1950年12月
再評価結果	1981年 8月

止 し や 剤

## 日本薬局方 タンニン酸アルブミン

「純生」タンナルビン

### 【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

- (1) 本剤に過敏症のある患者
- (2) 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌 (O157等) や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕
- \* (3) 牛乳アレルギーのある患者〔ショックまたはアナフィラキシー様症状をを起すことがある。〕
- (4) 経口鉄剤投与中の患者  
〔相互作用の項(1)参照〕

### 【原則禁忌 (次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】

細菌性下痢患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

### 2. 相互作用

- (1) 〔併用禁忌〕 (併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
経口鉄剤	相互に作用を減弱することがある。	タンニン酸鉄となることによる。

- (2) 〔併用注意〕 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
塩酸ロペラミド	併用薬剤の効果が減弱することがあるので、投与間隔をあけるなど併用に注意すること。	本剤の吸着作用による。

### 3. 副作用：本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

#### \* (1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状を起すことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、蕁麻疹、顔面浮腫等の過敏症状あるいは気管支喘息発作等の症状が発現した場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

#### (2) その他の副作用

	頻度不明
長期・大量投与(注)	肝障害
消化器	便秘、食欲不振

(注) 避けること。

### 【薬効薬理】

タンニン酸がアルブミンと結合し、かつ加熱して硬化処理を施してあるため、水に溶解せず、口腔、

### 【組成・性状】

本品はタンニン酸とたん白質の化合物である。淡褐色の粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがある。水又はエタノール(95)にほとんど溶けない。水酸化ナトリウム試液を加えると、混濁して溶ける。

### 【効能・効果】

下痢症

### 【用法・用量】

通常成人1日3～4gを3～4回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に与すること) 肝障害のある患者〔肝障害を悪化させるおそれがある。〕

胃ではタンニン酸による収斂作用があらわれない。腸に至って初めて胆汁により徐々に分解してタンニン酸を遊離し、全腸管にわたって緩和な収れん作用を及ぼし止瀉作用を示す。胃障害を起こさない。

### 【取扱い上の注意】

《配合変化》：アルカリにより分解する。

### 【包装】

500g

### 【参考文献】

- 1) 第十五改正日本薬局方解説書 2006, (広川書店)
  - 2) 網戸公美 他：アレルギーの領域, 4(3):394 (1997)
  - 3) 小林一彦 他：日本小児科学会雑誌, 101(9):1456 (1997)
  - 4) 芦田雅士 他：日本皮膚科学会雑誌, 108(4):554 (1998)
- 文献請求先：純生薬品工業株式会社 学術企画室  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-13-5  
TEL:03-3862-3151, FAX:03-3862-3154

製造販売元

純生薬品工業株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-13-5

平成19年1月作成